



ロシアNIS経済速報

社団法人 ロシアNIS貿易会

2009年（平成21年）7月25日号 No. 1469

目次

■ロシアの鉱工業生産は底入れしたのか？	1
■エトセトラ	8
『調査月報』2009年8月号のご案内／8	
■トピックス	9
浜田港ロシア貿易促進プロジェクト／9	
NEDO、ウズベクで初の省エネモデル事業／9	

ロシアの鉱工業生産は底入れしたのか？

はじめに

ロシア連邦国家統計局は7月15日、2009年上半期（1～6月期）の鉱工業生産統計を発表した。それによれば、2009年上半期のロシアの鉱工業生産は、前年同期比14.8%減であった。

言うまでもなく、ロシアの鉱工業生産は2008年秋以降の世界金融・経済危機の打撃を受けて大幅な下落に見舞われているが、ここに来て減産の度合いは鈍化している。こうしたことから一部では、ロシアの鉱工業生産は底入れをしたのではないかという観測も出ている。

そこで、今回の速報では、ロシアの鉱工業生産統計を図表に整理して掲載するとともに、若干の解説をお届けする。

データ解説

まず、2009年1～6月のロシアの主要経済指標がすでに発表されているので、それを表1にまとめた。正式なGDPの発表はかなり後になるが、7月15日にナビウリナ経済発展大臣が、1～6月のGDP成長率をマイナス10.1%とする暫定推計値を示しているので、参考までにそれも表に加えてある。ナビウリナ大臣はOECD向けの報告のなかでこの暫定推計値を示したわけだが、同報告のなかでは、ロシアのGDPは2009年後半には下落に歯止めがかかり、通年では8.0～8.5%のマイナス成長になるという見通しが掲げられている。